

第4回 共同体育館整備に係る意見聴取会議 議事録

開催日時

令和5年12月20日（水） 午後2時00分～3時30分

場 所

京都商工会議所 7-B会議室

第4回 共同体育館整備に係る意見聴取会議

議事録

■ 開会あいさつ（角田文化施設政策監）

共同体育館整備に係る意見聴取会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は委員の皆様、大変お忙しいところ、年の瀬にも関わらずご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日は第4回の会議ということで、これまで委員の皆様からは、それぞれのご専門の分野を中心に、様々な貴重なご意見を頂戴してきたところでございます。また、これまで周辺の自治会や、教育、福祉関係の方々との意見交換、それから府民ワークショップ、学生ワークショップも開催いたしましたので、その状況も紹介させていただきながら議論を深めてきたところでございます。

今回は、この間に開催しておりましたスポーツ施設のあり方懇話会での状況をフィードバックさせていただき、ご意見を頂戴したいと考えております。詳細につきましては、後程事務局からご説明をさせていただきますが、これまで重層的にご意見を伺ってまいりました。この状況も踏まえ、改めての忌憚のない意見を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。簡単ではございますが開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願い申し上げます。

議事（1）事務局からの説明

京都府から、配布資料に基づき、第15回から17回までの「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」の検討状況及びこれまでの共同体育館における意

見聴取会議の議論のまとめを紹介した上で、整備内容に係る意見を伺った。

<説明事項>

- ・ 共同体育館整備に係る意見聴取会議の開催経過の説明（配布資料1ページ）
- ・ これまでの意見聴取会議における委員意見の紹介（配布資料2ページ）
- ・ 府民ワークショップ及び学生ワークショップにおける意見の紹介（配布資料2ページ）
- ・ スポーツ施設のあり方懇話会の設置目的、開催経過、意見聴取の内容の説明（配布資料3ページ）
- ・ スポーツ施設のあり方懇話会で聴取した委員意見の紹介（配布資料4ページ）
- ・ スポーツ施設のあり方懇話会で聴取した委員意見のうち、整備候補地に関連する意見の紹介（配布資料5～6ページ）
- ・ これまでの意見聴取会の内容と本日事務局から紹介した内容を踏まえ、各委員の意見を伺いたい旨の説明（配布資料7ページ）

■ 補足説明

<上林座長>

ありがとうございます。

この意見聴取会議については、当初、今年の夏前を目安に終わるとされておりました。その後、報道で知る限りではありますが、向日市から、新たなアリーナ誘致の話があったとうかがっています。本会議は府立大学の敷地の中の意見聴取という形で検討はしていますが、向日市の話が出たことでもっと広い京都府域全体のスポーツ施設のあり方を検討するための懇話会を開く必要が出てきました。そのため一旦この意見聴取会議は休止し、府域全体を議論する有識者並びにスポーツ団体の方々に集まっていただいて、ご検討いただいたのが先ほどご

紹介いただいたあり方懇話会のご意見だと理解しております。

今回は、府立大学と向日町のそれぞれのあり方のご意見をいただいたことを踏まえた上で、改めて議論する機会だと思っております。前回、第3回の4月26日が終わった段階で次回が最終回だとうかがっていましたが、今日の本会議をもって最終回と考えています。今日で議論を尽くすことが非常に重要なのと、これまでも意見がいろいろと出ているなか、スピード感を持って進めないといけないと思っております。

ではこれまでの資料の内容等を含め、それぞれの専門的なお立場からご意見をいただきたいと思えます。第3回の際に、学生ワークショップでまとめたいただいたご意見がありました。ご紹介いただいたのが大分前の話になりますので、改めて塚本委員から府立大学の考え方についてご紹介いただくとよろしいかと思えます。

<塚本委員>

(スクリーンに資料を投影)

はい。ありがとうございます。府立大学の学長の塚本でございます。

僕は学生部長の立場でもあり、学生とクラブサークルで話し合いを積極的にさせていただいております。やはり大学というのは教育研究の場でございますので、そういう観点に重きを置いて今まで相談させていただきました。

前回と同じ絵になりますが、結論を先に述べますと、学生は1万人規模のアリーナを作ることは求めておりません。この案はその段階で作られたものです。今、全部つぶして工事をすると、大学生の活動が止まってしまったり、研究にも支障が出てしまったりするため、今使っている第2体育館を使いながら黄緑色の箇所を増築していくことで、最終的には今使いにくくなっている第1体育館

を、バスケットボールコートを増やし 1.5 倍ぐらい大きくしていくという案でございます。

多目的ホールを増やし、文化系のサークルも使えるような多機能性を持たせていく案でございます。現在、テニスコートがある場所は弓道場などにし、テニスコートはまた別に作っていくという考えでおります。これが学生との対話で出てきた最終案です。

12月13日に、クラブサークル研修会をさせていただきました。そこで私はこの内容を説明させていただきましたが異論はもちろん出てこず、逆に、この案を京都府に提示してくださいという意見が出てきました。1万人のアリーナではなく、2千人規模の体育館が綺麗にでき上がっていくと考えております。

大学の決定事項に関しますと、大学の最終的な意思決定機関である部局長会議が来年早々にあり、そこでお諮りして、大学の最終要望ということで、京都府に提出させていただきたいと思っております。あくまでも教育研究機関であるという大学の立場からの意見でございますが、やはり府立大学の使命としては、地域貢献がございます。地域貢献に関しては府民の皆さんに使っていただいたり防災機能を備えたりなど、様々な役割がございますので、そこに関してはどんどん意見を出していただき、皆様に愛されるような大学になりたいと思っております。

先ほど上林座長もおっしゃったとおり、この意見聴取会議は最後でいいと思います。私が学長になる前からこの話が出ており、もう話し合いは終えてよいというのが正直な意見でございます。一刻も早く整備し、安心して運動ができる施設にして欲しいとお願いしたいところでございます。

議事（2）意見交換

■委員意見

<上林座長>

塚本委員ありがとうございます。

昨年、私も学生ワークショップに参加をさせていただき、第2体育館をうまく生かすというのは素晴らしいアイデアだと思いながら、その後も学生さん達の手によって、いかに建物の圧迫感なくすかだとか、ここに木が立っているからもう少し場所をずらした方がいいのではだとか丁寧な微調整まで含めて、最後の最後まで詰めたご提案されていたことがとても印象に残っております。

それでは、学生ワークショップの意見も踏まえつつ、改めて皆様からご意見をいただきたいと思っております。お1人大体5分程度でご意見いただければと思います。いつも大変恐縮ながら五十音順でお願いしていますので、阿南委員からお願いできればと思いますがいかがでしょうか。

<阿南委員>

よろしく申し上げます。

今お話いただいた内容を聞きして、学生の立場からすると、当然、自ら利用することをベースに考えられますので、非常に実用的な案であることに加えて、先ほどお話がありました、地域貢献ということを考えると、場所は大学の敷地ではありますが、地域の皆さんが使えるような内容や、もう少し幅広く考えれば、大学のスポーツの大会を開くことができるような観客席を入れていただいて、学生中心ではありながら範囲が広げられるような施設にされるのがよいと思います。

これもお話にありましたように、確かに1万人規模のアリーナを作るのはよ

いかもかもしれませんが、動線を考えると北山のあのエリアでは現実的には難しい。向日町は既に集客人数が1万人以上いて道路整備ができており、向日町の方が現実的な議論がされるのではないかと期待しています。北山エリアの府立大学では、大学生ファーストを意識しながら、地域の方が気軽に使える、或いは地域の方と学生が一緒になってスポーツをするような場として活動していただけるような建物になるといいのではないかと思います。

<上林座長>

ありがとうございます。それでは続きまして小国委員。よろしく申し上げます。

<小国委員>

失礼します。小国です。第3回の際に言い漏らしてしまいました。やはり皆さんのお話を聞いて、府立大学の体育館のキャパの中に、今私たちが望んでいるものはもう正直なところ無理だと思っておりまして、今までと違う意見として向日町という意見も出ておりますが、競技団体の立場から申し上げますと、実際にスポーツ施設は足りていないので、向日町か府立大学かどちらかとかいうことではなく、府立大学の敷地内の中にお作りいただいたものを学生の授業であるとかクラブ活動であるだけに使うのではあまりにももったいないので、地域の方々との交流で使うのがよいと思います。また、現状として、京都の学生の大会でも、会場が借りられなかったら開催ができず日程も決まらない状態で試合をなさっているということもお聞きしておりますので、どちらも特性を生かした使い方ができるようになれば、非常にありがたいなと思っております。今こうしてたくさんの委員の皆さんから、すてきな意見を頂戴し、最先端の体育館になっていくのではないかと考えておりますので、競技団体の意見も混ぜてい

ただけると非常にありがたいというのが要望でございます。

<上林座長>

ありがとうございます。それでは金山委員、よろしく願いいたします。

<金山委員>

府立大学は50年前の体育館を改修するという事で、非常に重要なことだと思います。やはり大学にとっての使命は、次世代を担う学生を育成することなので、リニューアルに際し、現段階で学生の意見を取り込むことができたことは大きな成果だと思います。

ただ、メインのスポーツ施設にばかり目がいてしましますが、スポーツ施設はその施設自体よりも、付帯施設や更衣室、お手洗いやシャワールームなどの状況にユニバーサルを求められるもので、付帯施設とメインの施設をつなぐ空間は、動線を含めて非常に重要です。

その観点も含め、学生が学びやすい方向に進めていけたらと考えております。それから向日町の件ですが、資料には競輪場では周辺住民の理解を得る取り組みを続けてきており、新しい施設を受け入れる素地があるということに記載しておられます。恐らくは競輪場があることで、この地域はマイナスのイメージを払拭してこられた歴史を持っていると思います。マイナスの施設があるのであれば、地域にとってプラスになるような施設があるべきで、向日町では新しい施設を前向きに考えていただけるのではないかなと考えております。

国の第三期スポーツ基本計画では、誰もがスポーツにアクセスできるということを掲げております。ハードウェアは構想・設計時にある程度の議論をしておかないと、出来上がった後に改修するのは大変厳しい状況を招きます。障害のあ

る人もアクセスできるような意見なども反映していただければと思います。

<上林座長>

ありがとうございます。それでは木村委員よろしく願いいたします。

<木村委員>

はい。前回会議でも思いましたが、具体的な体育館の形が見えてよかったと思います。今回新たに、京都府立大学の学生さんたちの意見が反映された体育館の設計を、意見聴取していない、サークル所属学生さん達にも見ていただき、納得されたのは大変よかったと思います。一方、地域に開かれた体育館を考えたときに、今は学生さんたちがこう使いたいという要望をベースに作られているので、地域の方にどのような施設をどう貸し出すのかが十分には検討されていないと思うので、その点についても検討していただけるとよいと思います。体育館の「場所」としての使い方もそうですが、借りる時の「借りやすさ」も検討する必要があります。学生ファーストという観点では、学生さんから先に借りて、その次に地域の方が借りるというような具体的な方法も検討していただければと思います。

以前の議論で、施設を防災拠点として使う際、その施設を日常的に地域の方が使っていると有事の時に利用しやすくなるという話もあったと思います。スポーツされない方もいらっしゃると思うので、府立大学のイベントにこの体育館をうまく使っていただくことによって、地域の方に府立大学を知っていただきつつ、体育館も知っていただいて、ここが防災の拠点になっているということも広報できるとよいと思いました。

また、災害時もそうですが、体育館利用時にもネットワークや電源が必要にな

ってくると思います。Wi-Fiも含め、利用者が使いやすく、仕様の変更も可能な設備を検討しておく必要があると思います。

<上林座長>

ありがとうございます。それではちょっと僕は一旦飛ばしまして、越山委員、よろしくをお願いします。

<越山委員>

はい。今の話を踏まえて思ったことは、やはり今の問題を解決するために体育館整備をするのは近視眼的になりすぎていて、一度建てれば20年30年と施設は存在し続けるので、そこに向けて何を整備するのかという視点はハードウェアの整備をする上で非常に重要だと思っています。この話は今の話で当然整理しなければなりません、20年30年先にどのような機能を果たしていくのかという観点を持たなければならないと思います。場合によっては、今、話が出て、あなたたちはその施設を使えないかもしれないが、将来的なことを踏まえながら、整備を進めていかなければならないと思います。

その中で、私は防災の専門なので、大きく三つの視点がありまして、一つ目は地域の防災拠点として活用するための体育館ということを見ると、地域にある防災資源の一部を体育館で持ってもらおうということ。体育館があるから防災力が上がるのではなく、地域にある防災資源の一部を体育館で持ってもらおうという考え方はあり得ると思います。今地域にある資源の一部の機能を体育館に持ってもらおうという使い方で、そこに居住してる人たちとの関係性は作れると思います。今まで地域にあるものの一部をどう組み入れるのかという観点で防災の話は考えていった方がよいと思います。

二つ目は、20年30年あり続ける施設という点からすると、やはり丈夫でないと困る。防災的に丈夫でないと困るので、耐震と耐水の機能はがっちりと作るべきで、それなりのハード的な強さが必要です。最近の公共施設のコンペなどでは、防災拠点として利用できるような市役所を作ってくださいなど、標準仕様として書き込まれています。その仕様で作られたにも関わらず、水に浸かって停電したという市役所の例があったと思いますが、そのようなことがあるので、防災に強いというのを出された場合に、そのファシリティの設計は非常に重要です。そういう意味でその耐震耐水という点と、インフラ系が途切れず素早く復旧できるという機能は持っていて欲しいと思います。機能を持っている上で、どのように使うかということはこれから考えればよいと思います。災害時に使える施設なのであれば、地域との関係を作っていくながら、大学とも話し合いながら、徐々に使い方を考えていけばよいです。徐々に使うときに使いやすい環境を準備しておくことが大事だと思います。

三つ目は、今の話とは逆になりますが、どんどん変わっていった方がよいと思います。20年30年先のことは分からないというのは防災の話も同じですが、建築業界では、20年30年先にどのようなことが起こるかは分からないのであれば、社会や地域の環境に合わせて徐々に作り込むような施設の方がよいのではないかという議論がよくあります。特に災害においては、この災害が来るからこれを作ったとしても、その通りこないのが通常で、そうであれば、作れるときに、もしくは必要だという社会になったときにその機能を徐々に追加していったり変えていったりできるような環境にアダプテーションできる施設として、この体育館が今回シンボリックにつくれると、それこそが防災力とか防災拠点になりうる施設として存在し得るということを指摘しておきたいと思います。

<上林座長>

ありがとうございます。それでは田中委員、よろしく申し上げます。

<田中委員>

はい。前回は所用により欠席させていただき、議事録で拝見いたしました。塚本先生、それから上林先生はじめ、大変丁寧に学生の意見を拾われて、一つの合意点に到達されたということに非常に感銘を受けて、頭の下がる思いで拝見しておりました。

基本的には1万人規模のアリーナというのは、議論の中でもあまり現実的ではないと感じておりますし、そうであれば、やはり教育研究機関の施設として、スピード感を持って整備していく必要があります。その上で環境面について少し一般論的になってしまいますし、一部繰り返しになりますけれども、2点ご指摘させていただければと思います。

まず1点目ですが、京都府、京都市も、環境の分野では全国的にも先進的な自治体として認知されており、2050年カーボンニュートラルを宣言されておりますし、他の府県よりも、或いは国に先駆けて、非常に先進的な取り組みをされてきたという過去がございます。先日開催された気候変動枠組み条約の締約国会議においても、化石燃料からの脱却を進めていくということが世界的にも合意されたところであり、先ほど委員の皆様からもご指摘がありましたように、これから整備し、20年30年、或いは40年と持続し維持されていく公共の建物が、化石燃料を使ってエネルギー性能が非常に悪いものとなるのはやはり違和感があると言わざるをえない。やはり2050年カーボンニュートラルに対しても責任を果たせる建物をぜひ検討していただきたいと考えております。具体的には、国交省が2030年以降に建てられる新築建築物については、ZEB水準とすると言っ

ていますが、それを少し前倒しにして、ZEB 水準のものを建てる。或いは電気でエネルギー供給を行う設備に変えようとしたときに、もともとのインフラが整っていないければ、対応ができない、そういう事例がかなりありますので、あらかじめ想定した施設設計を検討していく必要があると考えております。これが1点目です。

それから2点目ですが、公共施設として整備されるということと、あと、特に若い世代の教育の場として整備されるということ、それから地域との交流の場として機能するということを特性と踏まえますと、先進的といえるような、環境面でしっかり配慮していると胸を張っていえるような施設を作っていく必要があると考えています。具体的なアイデアといたしましては、特に地元の木材の活用、こういったものを進めながら内装を、木材でできるだけ使うなどの取り組みは非常に有効だと思っています。CO₂の排出を減らすだけではなく、いかに吸収して固定していくかを考えたときに、今老齢化している森林を若返らせて吸収量をふやすということと、その木材を都市の建物の中で使ってそこに長期間固定していくことは非常に有効な方策であります。この観点からは、森林環境譲与税の制度がすでに国で整えられておりますし、府へもおそらく税収が入っていると思います。京都府の状況をよく存じ上げませんが、多くの自治体で、地元の木材の利用、利用者が少ないということで、その財源をうまく活用できてないという現状がございます。このような税のスキームなどを活用し、地元の木材の活用を進めていくというのも一つだと思います。これは一般論ですので、具体的に設計を進める際にケースバイケースで判断することになるかと思いますが、環境面からの意見は以上です。

<上林座長>

ありがとうございます。塚本学長には先ほどお伺いしましたので、ここで私からお話させていただきたいと思います。

今皆様のご意見をお伺いし、僕自身が学生のワークショップにも参加させていただいて思ったのは、すごく学生が頑張っていたかといえますか、自身が教員をやっていながら、学生の力をあなどっていた節があるという点で反省しているところがございます。

先ほど金山委員もおっしゃいましたが、自分たちの活動の場所を自分たちで作っていくのだという強い意識を持ってもらえれば、学生自身にも施設構想に関わるだけの十分なポテンシャルがあると思えました。例えば、今日課題として出てきた地域との関係という話も、むしろ府立大学が主体となり、学生たち自身が考える地域との関係や競技団体との関係が整理できると考えます。今回の観客席 2,000 席の規模とはおそらくインカレを基準にしていると思いますが、彼らは自分たちだけ使う場所として議論していたわけではなく、そこで競技大会をおこなうことを念頭に学生ワークショップでの意見交換をしていたと思います。先ほど小国委員もおっしゃったような、自分たちの授業の場所だけではなく、地域スポーツの競技会の場所のようなところも、学生が主体的に進めていく仕組みを作り上げることで解決できるかもしれません。先ほどお話にも上がった将来に向けて変わり続けることができる施設であるとか、20年30年たってもその時の学生たちが主体的に新しいアイデアを提供できるのではないかと考えます。一方、やはり学生ですから、まだまだ専門性には不足があり技術的などころにおいて難しい場面はあります。また今回実際にあった話ですが、当初主体的に意見を取りまとめてくれていた体育会の中心的な学生が引退してしまい、別の学生に代わってしまうということがありました。学生が主体になると単年

度でどんどん人が代わっていきます。これは大人の立場にある人々がケアをするべきで、それらも含めた全体の仕組みづくりが重要になると思います。

改めて思うのは、共同体育館という単施設だけで考えるのは難しい点です。大学キャンパス全体の話をしなければならないのではないかと考えています。あくまでこの意見聴取会議は共同体育館という単施設に対してのお話ではあるのですが、今、委員の皆様の意見聞けば聞くほど大学キャンパスとの連携が重要であり、大学キャンパス整備と併せて進めてもらわないと困るということに繋がっていると思っています。特に先ほどの金山委員のユニバーサルデザインの観点や教場という観点では単施設では留められない話でしょう。これまでは共同体育館以外のところは議論に出ていませんでしたが、学生から出てくる意見はクラブボックスをどうするかとか、大学会館との関係であるだとか、今のキャンパス内施設との関係を気にしています。将来計画と一緒に考えていかなければならない問題ではないかと思った次第でございます。

また今後は学生だけでなく、教員も交えた考え方も非常に重要だと思っています。教員向けの意見を集める場が今後設けられるとの意見にあわせて、学生と同様教員が主体的に関われる仕組みが必要だと考えます。例えば京都工芸繊維大学にはキャンパス内に木製のデッキがたくさん設けられています。これは、工芸学部造形工学科において大学の先生が学生に課題として木製デッキ整備のコンテストを行い、毎年の課題を積み重ねてデッキを増やしていったという経緯があります。先生もぜひ主体的な立場から、先ほどの学生が考えるとか学生が主体となるところをうまく組み合わせていただくことが必要だと思います。共同体育館だからといって体育の先生たちだけが実習で使うものに留まるものではないと思うのです。京都府立大学が今後、学部学科編成を変えていく話の中で、共同体育館をこのように使うべきかという発議は、学生たちから引き出しづら

いものですから、先ほど塚本学長からもお話いただきました通り、学内での何らかの協議会や審議会を通じて、教員の皆様のご意見をいただき、今後盛り込んでいくべきと思っている次第でございます。

一通り委員の皆様からご意見をいただきました。皆様のご意見を伺いながら、プラスアルファで、他のご意見もお伺いできればと思いますが、いかがでしょうか。

私は確か第2回から第1回の時に、まだ当時はまだありかた懇話会がありませんでしたので、当初は収支の課題や不足するスポーツ施設の問題など多岐にわたって議論を広げてきましたが、向日町の話があがるなど状況がかなり変わってきた中でも、改めて北山において学生体育館を建てるという点において専念して考えられる状況が出揃ったと思っております。20年30年先を考えた議論は、府立大のあり方そのものを問うていただいているものではないかと考える次第でございます。

金山委員にも触れていただきましたが、向日町にしっかりした施設を作って欲しいという意見が正直にあると思います。もっと言うと、小国委員にお話いただきました通り、向日町に全部押し付けるのではなく、むしろ府域全体でどうやって、例えば国際大会を誘致するとか、そのような考え方は、京都府だからこそできることがあると思われま。全体観を踏まえて、今後とも議論を深めていくことが重要だと思っております。

こと今回の件をスピーディーに進めようと考えたと、北山に観客席の大きな施設を作ると、都市計画審議会に諮る必要があり、さらに検討の期間が延びると伺っております。今回の学生ワークショップ案はスポーツ練習場としてバスケ

コート三面、可動観客席で 2,000 席規模なこともあり、審議会の対象にならないような施設となります。学校施設として進めることができる可能性が高く、よりスピーディーに話を進むのかなと思いました。

また、府立大学や京都府にもお願いしたいのが、先ほど私はこの意見聴取会議が一旦休止しあり方懇話会が開催され、また再開した経過を説明しましたが、外からは、協議会に協議会を重ねて何をやっているのだと見えるように思われるのではないのでしょうか。かなり期間が伸びましたので、この共同体育館に関する説明会をできるだけ早く実施いただきたいと思っております。地域の方々にも、広く周知、共有いただくことが重要だと思っており、その中で、今日課題として出てきました地域との連携の話も、より円滑に進んでいくと思っております。ぜひ丁寧にコンセンサスを得ながら、学生にも地域の方々にも喜んでいただける施設の検討を深めていただければと思う次第でございます。

<上林座長>

他にご意見はありますか。

<阿南委員>

はい。決して京都府の立場に立ってお願いするわけではないですが、皆さんのご意見をすべて投入すると予算が幾らあっても足りない。いずれ建物を建てるということになれば、京都府としても予算の中で実施することになるかどうかと思えますし、ここで出てきた皆さんのご要望通りのものができ上がるかどうかはわからない。新しい計画の中に少しでも皆さんのご意見を散りばめる難しさはあろうと思いますが、やはり昨今の建設費の高騰を考えると、相当お金がかかってくるというのは事実です。普通のものだけでも相当お金がかかってくると思

いますので、これは私が言う話ではないのですが、現実的な落としどころというものはあるということをご理解いただければと思います。個人的な意見でございます。

<上林座長>

ありがとうございます。貴重な意見だと思います。実は近しい話が学生ワークショップのときにも出ており、今回あえて増築にした理由は、段階整備が可能という考え方を持っているためです。もし予算が足りないのであれば、先に増築棟だけ作れば、それだけでも機能の拡充ができる。おそらく初めは、第1体育館を無くすことが優先になると思いますが、そのような段階整備を踏まえて、うまく適合させてお互い知恵を出していきたいということだと思います。

貴重なご意見ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

<越山委員>

はい。体育館を作ってそこに防災的な機能を入れるのであれば、1回くらいは災害が起こると思っていただいて、そのときに体育館を使うという前提で整備して欲しいと思います。どう使うかはまた皆で考えたらよいのですが、水害かもしれないし、大地震かもしれないが、20年から30年の間で大きな災害が起きるとして、1回ぐらいは災害時に使われるという前提で、その時に使えるタイプの設備を今回で整備しておいていただければいいと思います。

<上林座長>

ありがとうございます。

先ほど越山委員にご指摘いただいた、地域の防災資源を協働的に負担すると

いう考え方は地域防災に繋がる話だと思い、聞いておりました。まさに喫緊の課題で、想定したイメージではなく実際にあるものとして、実際に考えるという視点は非常に重要ななと思います。ありがとうございます。

<田中委員>

先ほど阿南委員がおっしゃいましたが、私も最初の会議で同様の懸念について発言をしました。やはりこの会議は、これだけたくさんの専門家の方々が集まっていられるので、本来であれば何か具体的な制約の中で、そのウィッシュリストをどう調整して実現していけるかを話し合えばより建設的なものになったろうということを率直に感じているところです。環境面では、やはり省エネの性能の高い設備を作ろうと思えば必ずお金がかかります。そのお金はランニングコストの中で回収されていくというそういう前提で、設備の設置を考えなければなりませんので、初期投資の予算だけでなく、長期的なコストを含め、うまく契約する或いはそういうサービスを提供する事業者さんとうまくスキームを組んでご検討いただくのがよいと思います。

<上林座長>

省エネアリーナについては、直近でニュースになった神戸アリーナが ZEB Ready を取得したという話や、大学体育館でも早稲田アリーナは、同じく ZEB Ready を取得しています。おそらく今後、国内施設においては同様の水準での環境配慮の観点が重要になると思っています。以前の意見聴取会で、単体だとあまりにもエネルギーコストが高い施設になりますので、エネルギーマネジメントをキャンパス全体などで考えて、周辺の施設との最適化を図る考え方はあるかもしれないという話は出ていたかと思います。意見聴取会議での議論を踏まえ

でキャンパス全体の計画と連携するなど思い切ったところまで、改めて考えていただけると良いと思っています。

<塚本委員>

府立大学では、施設整備委員会を設置しており、共同体育館に関しても、全体的に考えていこうと思っています。うちには環境デザインや建築専門の学科もごございます。あと公共政策学部もありますので、色々な意見が出てくると思います。

京都府は予算を決めていかなければならない時期になっていると思います。いきなり設計というわけにはいかないと思いますので、計画をできるだけ予算化していただく段階で、それを民間活用にするか等の手法や金額もある程度決まってくるかと思っていますので、どう建てるか考えるところにまず予算をつけていただけたらと思っています。あまり時間がなく、伸びるとまた1年ずれていく悪循環ができますので、とにかくこの構想と計画に関して、予算化していただきたいと切にお願いしたいと思っています。

<上林座長>

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

非常に長い間の議論となりましたが、たくさん議論を尽くしていただいたと思います。ありがとうございます。改めて感謝申し上げます。それでは、こちらで意見交換を終了しまして、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

■閉会あいさつ（角田文化施設政策監）

本当に貴重なご意見をいただきありがとうございました。本日、委員の方にいただいた意見は大事な視点であると思います。越山委員の近視眼的にならないようにというご意見ですが、20年先30年先を見据えて、丈夫なものを作るべきだという一方で、環境に合わせて変わっていく施設であるべきだということは、強靱化やしなやかさという防災の関係に通じていくものであると思っております。

また2030年ZEH水準の話もございました。上林座長にまとめていただきましたが、変わり続ける施設であるために、その時に在籍している学生の意見をその都度取り入れていくべきだという大事な視点もおっしゃっていただきました。共通する部分として、予算措置に応じてアジャストしていく必要があり、共同体育館のみならず、キャンパス全体として考えていくべきというご意見もあり、また、地域利用については、ハード面だけではなく、運用面の両方について、今後どうしていくべきかという問いを投げかけられたと思っております。貴重なご意見をありがとうございました。

そして冒頭では塚本委員から、先ほど投影された図を府立大学の意見としたというご意見をいただき、年明けには学内の教員の方にもご意見を聞いていくということもおっしゃっていただきました。さらに上林座長からは、今回のご意見を府民にもしっかりとフィードバックしていくことが大切だということもおっしゃっていただきましたので、このようなご意見も踏まえて、しっかりと対応していきたいと思っております。

閉会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。